

ビキニデーin 高知 2025

実行委員会ニュース No.5 2025.05.20

発行「ビキニデーin 高知 2025」実行委員会〔事務局〕高知県原水協



ビキニデーin 高知 2025(室戸集会) 215 人の参加で大いに盛り上がりました

「わざわざ室戸まで来てくれる人はおるがやろか」、などと少々自嘲気味に始まった室戸集会ですが、全国の平和を願う人たちの中に口伝えで広がり、県内の平和を願う人たちの粘り強い取り組みで、徐々に参加者は増え、最終番には「椅子はたりるやろか」という心配をしながらの開催でした。おかげさまで当日は 200 人を超える方々が集まって、とっても充実した集会になりました。参加して下さった方、応援して下さった方々に心よりお礼を申し上げます。

全体的な取り組みのまとめは、総括の実行委員会を開いてのことになりますが、ここでは、新聞報道や寄せられた感想を紹介させていただきます。

◆オープニング

- ・合唱団の生の歌声がとても心に響きました。どの曲もよかったです。特に三曲目の漁夫が幡多の被爆者をうたったものだと知り、考え深く聴きました。歌を通じて平和の大切さを改めて感じました。
- ・歌を聴きながら涙が出ました。感動を頂きました。



◆現地実行委員会のあいさつ 基調報告 下本さんの報告 オープニング

- ・歓迎のあいさつの松本さんの話は体から伝わるようなお話で、自分としても明日から頑張ることができることをしたいと思いました。
- ・基調報告は現在の課題をよくまとめていてよかった。下本節子さんの報告は怒りの原点がよくわかりました。
- ・皆さんの演技力に驚きました。若い人が主体提起に伝えることができる劇というツールが活かされた取り組みだと感じました。



◆記念講演

・展示館に行きます。・人々の中に思いを伝えたかった大石さんの孤独を初めて知りました。・いろいろなことを少しジョークも含め笑いもあり、語っていただきどうもありがとうございました。知らないことを生き証人(私)に教えていただきありがとうございました。

・第五福竜丸のみならず、ビキニ事件は日本、さらには世界とつながることだと改めて感じることができました。・市田さんの役割は素晴らしいと思った。貴重なお話が聞けました。



◆元船員、関係者との交流

・胸がいっぱいになった。出てきてくれてありがとう。・お一人お一人の人生から、とても深いものを感じることができました。・体調が悪い中、貴重な発言を聞くことができてよかったです。伝えないといけないですね。・今までの積み重ねを感じました。・貴重なお話に敬意を表します。長生きしてください。・元船員さんの飾らない人柄がわかり、それだけで封印されてきた謎の一端がわかったような気がしました。



(令和7年)5月11日(日曜日)

高

被ばく当時の船上の暮らしを語る小笠原勝さん＝中央。右は久保尚さん(室戸市領家の市保健福祉センターやすらぎ)



ビキニ被ばく 伝え続けて

室戸市 福竜丸館学芸員が講演

【室戸】1954年、米国が太平洋・ビキニ環礁で行った水爆実験で被ばくした元マグロ漁船員らの支援などを考える「ビキニデーin高知」の全体集会在10日、室戸市内で開かれた。オンライン参加も含め約200人が当時の船上生活や被ばく後の救済状況を知り、ビキニ事件への理解を深めた。

集会では、爆心地から約160キロ東の海上で被ばくした静岡のマグロ漁船「第五福竜丸」を保存する東京都立第五福竜丸展示館の学芸員、市田真理さん(57)が講演した。

市田さんは「実験直後の数年は反対運動も起き社会の注目を集めていたが、80年代に幡多高校生ゼミナールの学生らが調査を始めるまで忘れられていた」と指摘。爆心地はサンゴがえぐられ水深60メートルの場所があるとし、「日米合意などで人が忘れようとしても、地球は覚えている。社会でこの事件を考え続けたいといけな」と訴えた。

また、県内の元船員が国に損失補償を求める訴訟の原告の一人、桑野浩さん(高知市)が9日、91歳で誤

嚙(くは)のため亡くなったことに触れ、多くの元船員が高齢となり亡くなっている。船員の声を聞き、伝え続けたいといけな」と話した。

被ばくした室戸の漁船「第五福竜丸」の元船員、小笠原勝さん(91)＝室戸市＝と同じく被ばくした「第二幸成丸」の元船員、久保尚さん(88)＝同＝も登壇。2人は「真水はご飯を炊く時だけ使い、洗濯は海水、風呂はスコールだった」「ずっと着けていた手袋は帰港後、高い数値の放射能が出た」と当時を振り返った。被害者支援団体などでつ

〈参加者データ〉

◆参加総数

- ・一日目 全体会 215 人
- ・二日目 第一 58、第二 28

◆参考まで 室戸市 59、県外 39－北海道 1、関東 10、近畿 20、中国 5、四国(高知外)3

くる実行委員会の主催。11日は、高知、東京両地裁のビキニ訴訟担当弁護士や幡多ゼミOBらの分科会が開かれる。

(人見彩織)

◆分科会

- ・第一分科会。因果関係ありきで、状況は明らかであるにも関わらず、長年の様々な苦しみに寄り添わない日本政府に憤りしかありません。十分の一程度の「補償金」で、生活が懸かって船に乗らざるを得なかったために、さらなる被害に遭ってしまった方々や、その人たちを支えてきた家族が報われるように、こういった学びや運動を地道に取り組んでいくことが大切だと改めて思いました。核抑止で成り立つ世界は絶対に間違っていると言いつけたいと思いました。(50代)
- ・こういった平和運動に初めて参加しましたが、ビキニ事件ということを初めて学ぶことができました。自分の誕生日が8月6日ということもあり、原爆と少し因果がある感じで、今回の学習で初めて核の恐ろしさ、非核の大切さを学ぶことができました。皆さんが言っていたように、自分も平和が一番だと思っています。自分たち若い世代が伝えていかなければいけないときになっていることを自覚し、こういった平和活動に積極的に参加していきたいと思いました。



- ・第二分科会の、質問の際に聞いた神戸の人の話、「非核神戸方式」の話が初耳で面白かった。詳しく聴いてみたいと思った。東京の大学教授から公害問題でもかつての資料が失われつつある。どうすれば活動を残していくために(80~100年後)に資料を残していけるのか(10代~20代)
- ・様々な方面、団体で多くの平和に向けた活動があるのだと、まづ知ることができました。内容もそれぞれの方が詳しく報告していただき、自分の県や市、自治体についてもしっかりと調べたことはなかったため、家に帰ってから調べてみようと思いました。(10代~20代)



寄せられたメッセージ(当日紹介文)を紹介します

室戸市長 メッセージ

本日は、「ビキニデーin 高知 2025」が、室戸市で開催されるにあたり、ご挨拶を申し上げます。

1954年ビキニ環礁で行われた水爆実験により、静岡県第五福竜丸をはじめ、延べ約1,000隻のマグロ漁船が被ばくしたとされています。マグロ遠洋漁業の一大基地であった、ここ室戸の漁船、室戸港もその被害を受けました。室戸港では水揚げされた魚を岸辺に並べ、放射能による汚染を検査して、基準を満たさない魚を沖へ戻すなどの措置が行われました。当時の船員たちの収入は売上に応じた歩合制だったため、室戸の船員たちは生活に大きな打撃を受けたと聞いております。

そのビキニ事件から今年で71年経ちます。豊かな海に支えられ、平和を願う私たちにとってビキニデーは、大変意味のある一日になると存じます。

本日は、第五福竜丸展示館の学芸員を務める、市田真理さんによる貴重なご講演をいただきます。私たちにとって、これからの平和を考えるきっかけになることと



思います。また、明日は、室戸世界ジオパークやむろと廃校水族館への見学ツアーも予定されているそうです。市外からご参加の方は、大いに室戸市を堪能してってください。簡単ではございますが、ご参加の皆さまや「ビキニデーin 高知」実行委員会の皆さまのご健勝とご多幸を祈念し、ご挨拶とさせていただきます。

令和7年5月10日 室戸市長 植田 壯一郎

高知県健康政策部 メッセージ

「ビキニデーin高知 2025」全体会の開会にあたりまして、ご挨拶を申し上げます。

本日、多くの関係者の皆様のご協力と、ご参加によりまして、5回目が開催されますことを、心よりお喜び申し上げます。また、昨年には、被爆者の立場から核兵器廃絶を訴えてきた日本原水爆被害者団体協議会がノーベル平和賞を受賞されるなど、皆さまがこれまで被ばくの実態の啓発、さらに被災者の苦難の道のりへの理解の促進に向けた取り組みを展開してこられたことに敬意を表します。本集会は、ビキニ環礁水爆実験をはじめ、核被災について学び、核のない世界の実現に向けて、参加者皆様でその思いを共有されることを目指して開催されようかと思っています。

また、本日と明日の2日間行われます文化行事、記念講演及び交流会や分科会において、当時の船員さんや関係者の思いをお聞きできる大変充実したプログラムが予定されております。現在も世界中で紛争問題が解決せず、多くのかけがえのない命が奪われています。ぜひ、この集会が、核兵器のない平和な世界の実現に向けて大きく寄与されますことを、心から祈念いたします。

県では、被災船員の方々の健康不安を軽減するために、地域の医師等による健康相談を継続的に実施しております。今後も、ビキニ環礁水爆実験による被災者やそのご家族に対する思いに寄り添いながら、健康不安を軽減するための支援を大事にしていきたいと考えております。

最後になりましたが、本日ここにご参集の皆様の益々のご活躍をご期待申し上げますとともに、皆様方の今後のご健勝をお祈り申し上げまして、挨拶とさせていただきます。

令和7年5月10日 高知県健康政策部長 中嶋 真琴（代読：高知県健康政策部医監 川内 敦文）



当日は会場設営、展示設営、受付、書籍などの販売などたくさんの方のご協力がありました。たくさんのお漁旗にも気が付かれたと思います。檜垣さん、南さんそして椎名大敷さんからも快くご提供していただきました。夜はニューサンパレスに70人が宿泊し、さながら修学旅行のように交流しました。ホテルスタッフの方にも大変親切にいただきました。ご尽力いただきました皆様ありがとうございました。心よりお礼申し上げます。（実行委員会事務局）